

【対象児】

4歳11か月 男児

【観察する行動】（定義）

自傷行為（頭をたたく）の回数

【測定方法】

前の自傷行為から3秒以上自傷行為の間隔があいた時に、その次の行為を1カウントとして数える。

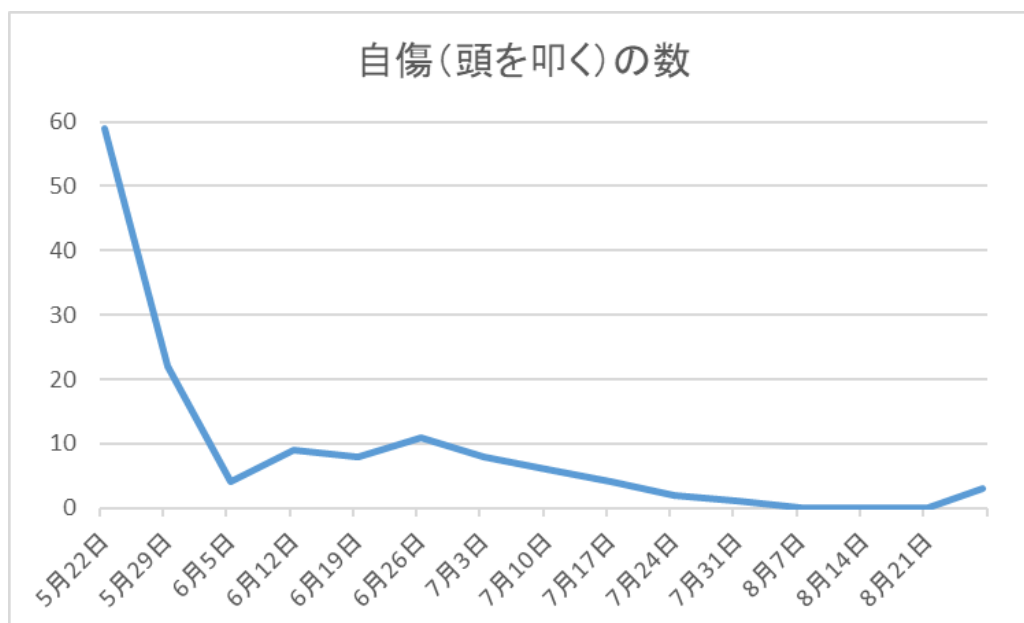
【介入方法】

NCR（非随伴強化）を用いる。

- ① 15分間好きな遊びに従事させ、問題行動の有無にかかわらず1回/30秒のペースで注目を与える。
 - ② その後90分間セラピーを行いながら、問題行動の有無に関わらず1回/30秒のペースで注目を与える。
- ① ②の介入中の自傷数の合計をカウントする。

【観察期間】

2018年5月22日～2018年8月21日



- ・ 5月22日 ベースライン（消去）
- ・ 5月29日～8月7日 NCR介入。問題行動が2分に1回以下になったら注目の間引きを実施。
(2回/分→1.5回/分→1回/分→1回/1.5分→1回/2分…)
- ・ 8月14日～8月21日 介入なし

【背景】

4月からの年中進級に伴い、クラス、担任、加配担任の変更があった。加配担任がK君に対して高圧的な対応をする為（保護者から見た印象）、年少の時にはそれほど気にならなかった問題行動が顕著に認められるようになる。自分の頭を叩く、唾はき、口周りを舂める、奇声、否定語を使ったエコラリア、チック症状（目、咳払い）等。園だけでなく自宅やセラピー中にも頻繁に問題行動がみられるようになっていた。

セラピーではDRAで問題行動に代えて「いや」と言わせる取り組みを行うが、頻繁かつ瞬発的に自傷が起こるためうまくいかず、DROでの取り組みも自傷数があまりにも多く難しかった為、NCRによる介入を選択した。

【考察】

NCR介入中に問題行動と強化のタイミングが重なり行動の増加を心配したが、当時かなり園生活でストレスがかかり不安定な状態にあった本児にとって、NCR介入によりどの状態にあっても継続して頻繁に強化（注目）を得られたことは気持ちの安定を得る効果をもたらしたと考えられる。

またこの介入時期には幼稚園を一時休園し別の児童デイサービスに通うことを決定しており、ストレスが掛かっていた環境から離れたという要因もあいまって、結果的にこのような自傷行為の減少が起こったと考えられる。

今回のケースの様に問題行動が頻繁でDROやDRAによる対処が難しい場合、NCRによる介入も検討してみると良いかもしれない。